**6月14日　株式会社Kaien　代表取締役　鈴木　慶太 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

今回の講義で最も大事だなと思ったのは「トップを見つつボトムを見る」ということです、トップは頑張った人にしか見ることのできない厳しい場所だから、そこに行くには長期間気を抜かずに自分の力を出し続けること、ボトムを見るには、トップの世界で閉じて埋もれてしまわずに、ニュートラルな心で自ら歩み寄ること、どちらもすごく難しいことなのにそれを淡々とおっしゃる鈴木さんは、発達障害のほうの仕事に目を向けただけあってさすがだなと思いました。社会一般的な弱さから逆手をとって強みを引き出し、それを活用したビジネスの展開のきっかけや企業の苦しみ、達成感、その過程で起こったことなどが詳しく聞けて面白かったです。（経営学部・会計・情報学科・1年）

起業して、今は成功していると言える方でもかつては生活苦になるほどの経営難を体験していることがよくわかった。誰しもが、最初から納得できるような結果を得られるというわけではないのだろう。今後自分が何か新しいことに着手した時にうまくいかないからという理由ですぐに諦めてはいけないと考えた。思い通りにいかず、試行錯誤している間があるからこそ自分のスキルや人間性を向上させることができるということを胸に留めておきたい。この教訓があればこの先の苦難に対して前向きに対処していくことができるだろう。また、大学生のうちに苦難を経験しておくことが社会に出た時の糧になると思う。

（経営学部　経営学科　2年）

「一瞬一瞬気を抜かないで過ごせば5年10年経ったとき全然違う」という言葉が印象に残りました。時々、「ああこの人にはかなわないな、なんでこの人にはできてわたしにはできないんだろう」と悩むことがありますがこの言葉を聞いて、自分の努力次第でそういう人でも追い越せるんだなと覆いました。一瞬一瞬気を抜かずに努力して自分を成長させたいと思いました。自分と同じような境遇の人だけじゃなく上にも下にもアクセスするということは難しいことだろうけど、謙遜しすぎないためにも上から目線にならないためにも必要なことだろうなと思いました。（経営学部国際経営学科1年）

今まで講演に来てくださった方々は起業したくてたまらなくなって起業した、という方が多かったので、特に起業したかった訳でもないし接客も好きではないという鈴木さんのお話は、とても興味深かったです。たとえ自分にはリーダーシップがないと思っていても、「目標設定」と「リソース確保」をすれば誰でもリーダーシップになれるし、起業もできるんだ、と感じました。起業にクリエイテビティは必要ないというお話にとても驚きました。起業することを堅く考える必要もないんだと思いもっとタフに起業について考えてみようと思いました。(経営学部・会計情報学科・1年)

最初の一言が今自分がやりたいことがなくても大丈夫ということだったので、この面は今まで講義していただいた方とは違う部分だと思いました。また、気をぬいたことがないという意志の強さは参考にしたいと思いました。NHKという大手に就職してそこである程度キャリアを積んだにもかかわらず違うことをやるためにきちんと準備して一歩を踏み出したのはその意志の強さ故だと思いました。トップを見てボトムを知る。ボトムはいくらでも介入できる。求められているから。でもトップは中を見れない。という言葉を聞いていつまでも挑戦をする気持ちを持とうと思いました。24時間テレビの例を聞いて自分も同じような気持ちを持っていたので、そういう気持ちを変える出来事に出会った鈴木さんのように自分の凝り固まった概念を変えるモノに出会いたいなと思いました。満足させるな、感動させろ。バイトでも部活でも普段の生活でもそれを意識したいなと思いました。(経済学部・国際経済学科・1年)

リーダーとは目標設定、リソースを確保する人だということが一番印象に残りました。やはり上に立つものは目標を設定してみんなを引っ張っていかなければいけいない事だと思いました。また、自分の率いている者たちに目標に向かうためのやる気を引き立たせてあげるのが大事だという事も分かりました。私は鈴木さんのように１年は大きいという事は分かっていますので、一瞬一瞬を必死に頑張ろうと思います。（経済学部国際経済２年）

授業だけでは学べないことを新聞で学ぶ。時間をムダにしないこと。中身のある時間を過ごすことが大事。一瞬一瞬気を抜かないことで5年後10年後全然違う自分になれる。男性と女性とでは脳が違う。MBAに行くとキャリアチェンジしやすい。行くならトップ校。良い環境に身を置くことで自分を磨く。トップとボトム。トップからはボトムは見えるが、ボトムからトップは見ることができないから頑張ってトップに行くことが大事。強さと弱さは表裏。スイミー。パスタとオリーブオイル、パンとオレンジジュースで生きていく覚悟が必要。「猿の惑星」から考えて「発達障害」の世界を。起業による成長度はすごい。ドリルじゃなくて穴を。10000人のlikeより100人のloveをまず集めること。企業にクリエイティビティーは必要ない。SWAN。（経営学部・経営学科・１年）

今までの講演者の方は、どちらかといえば積極的で、斬新なアイデアを発想できるクリエイティブさを持っている人が多かったのですが、鈴木さんはおとなしい方だと自分でも言っており、私もそういう性格であると自負しているため、とても興味深かったです。気を抜かずに行動することで差を生むということや、留学にせよ中身のある経験をするといったお話は普段の生活に還元できるものだと感じ、さっそく意識して生活していきたいと思いました。今回の講演で一番強く感じたのが物事のとらえ方が柔軟というか、常に視点を変える見方をされているということです。起業についてや社会貢献についての概念が自分の中で変わりました。本当に勉強になりました。（経営学部・経営学科・１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

海外の偉人たちの言葉を直接聞き(ニュアンスを含め)理解できることは大変重要なことであるという話を聞き、英語を本気で学ぼうと思った。(経営学部　国際経営学科　1年)

アナウンサーだったことも関係しているのか、とても聞きやすい話し方だった。話し方や作文力も含めて自分の日本語力にテコ入れを行う予定だったので、その手段として三島由紀夫の著作を夏休みに読み通したい。（経営学部国際経営学科 １年）

今、この時から、何でもいいから一つの事柄を継続していきたいと思う。これは具体的すぎる必要はなく、たとえば、ニュースを見るとか、何分歩く、とかでもいいのではないか。とにかく、日ごろから準備するアンテナを張るというのは、「妥協しない」ということを念頭に置くことが最も重要であり、そのうえでオプション（何か追加していく）を加えることが本質であるように感じた。現在は読書が好きでいろいろなものを少しずつ読んでいるので、その好きなことを生かしたい。（理工学部・化学・生命系学科・3年）

**授業スタッフの感想**

この講義の中で最も印象に残ったことは、起業当初のこだわりを、１年ほどで本当に重要だと思うところ以外を捨てたということだ。起業当初のこだわりというのは、即ち鈴木さんにとっての理想形だったのだと思う。だとすれば普通は、そのこだわりは、簡単に捨てられるようなものじゃない。しかし鈴木さんは、実際の発達障害を持たれている方たちとのかかわりの中で、今の現実を知り、現状まずどうする必要があるのかを知ることで、自分の中だけで完結していた理想を、当事者である発達障害を持たれている方たちと共有し、自分の思い違いや認識を改め、多くの足枷となっていたこだわりを捨てることに至った。講義の中で鈴木さんがおっしゃっていた、自分だけが熱くなって、自分の考え、思い込みがすべてだと勘違いしてしまうということは、今まで頭になかったけれど，熱を持っている人ほどやりがちで、空回りの最大の要因なのではと認識した。このことに気づけるか気づけないかで、結果が大きく変わってくると思うので、これから先自分だけでなく、何かを一緒にやる仲間についてもこうなってしまわないよう注意していきたい。

前回のファクトリエの山田さんは、英語を鍛えるのもいいが、日本語をしっかり鍛えて、日本語で深い議論をできるようにすることが大事と言っていましたが、今回の鈴木さんは英語をコミュニケーションのツールとして、世界の高水準の人々と情報を共有するのが大事と言っていて、日本語も勉強したいが、英語も勉強したいと思った。最終的には両方がんばりたいが、まずは日本語を徹底的に鍛えようと思った。